

令和6年度第3回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第3回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

1 日程及び場所

令和6年11月28日（木）

近畿中国森林管理局 4階 大会議室A（対面Web併用形式にて開催）

2 議題

- (1) 近畿中国局管内の木材需給動向について
- (2) 国有林材供給調整の必要性について
- (3) その他

3 議事概要

《検討結果》

国産丸太の出材量は、伐り匂を迎えて増加しているが、各地とも例年より少ない傾向が続いている。住宅関係について、戸建て分譲住宅の受注戸数の増加も生じているが、依然として低調である。製材品については、一部でプレカット工場の稼働率回復の声が聞かれるが、10月をピークに減少に転じているところもあり、仕事量は減少気味となっている。

合板については、20%程度の減産を継続しているが、合板価格は続落している。

木材チップについては、燃料用の需給がひっ迫し、製紙用と燃料用との取り合いが強くなっている。

輸入製材品については、荷余り感が拭えない商品もある。羽根材の在庫は、全般的にピークを過ぎているが、構造材は依然として荷動きが低調である。

以上、住宅需要の先行きが見通せない等の状況にあり、木材加工関係の荷動きは依然として低調であることから、直ちに国有林材による供給調整を行う局面にあるとは判断しない。

国有林においては、立木販売の落札率向上に向けた販売方法の工夫を引き続き行いつつ、木材の安定供給に努めることが必要である。他方、燃料用木材チップの需要は旺盛であり、地域における需給動向、民有林の出材状況、住宅着工戸数等について注視しつつ、引き続き国有林として情報収集・分析を行いながら、素材生産事業を着実に実行することが望まれる。

なお、需要動向、市況動向に大きく変化があった場合には、具体の対応策を検討する必要がある。

〈主な情報、意見等について〉

○木材の需給動向について

- ・ 和歌山県内の令和6年次上半期木材供給量は、対前年並みで、バイオマス用材は、増加している。
- ・ 和歌山県内の住宅需要は、令和6年度1月～9月の住宅着工戸数は1,662戸で、対前年度比 92%、対前々年度比75%となり依然低調である。
- ・ 和歌山県内の原木市場の1月～10月の出荷量は、53,000m³で対前年同月比100%である。
- ・ 島根県内の9月から10月の木材供給量は、9月は対前年同月比95%、10月は104%で2か月平均99.6%と前年並の供給量となっている。用途別に、製材向けとなる原木市場取扱量は1割以上減少、合板向けが9月は対前年同月比94%、10月は94%で2か月下回っているが、前年と比べて1割以上の増加を見込んでいる。燃料用向けチップは対前年度比139%と大幅に増加した。
- ・ 原木市場で仕入れたA材の量がB材に回ってきている。また、B材、C材がさらにチップ用材（D材）としてかなりの量が流れてきており、市場の手数料を加味した場合であってもB材となる原木がチップ工場に直接搬送される量が増加している。
- ・ 近畿エリアの出材量は、伐り旬に入り増加傾向だが、需要低迷から施業意欲に繋がっておらず、伐採計画の施業見直しで抑制が生じ、例年に比べ減少傾向が続いている。
- ・ 製材所は需要が悪く夏場の原木在庫は少なめであったが、寒伐り材の手当てに向け、引合いは強い。製紙チップ及びバイオマス等の低質材需要は引き続き旺盛であるが、搬出施業量が増えない山側の現状から慢性的に不足が続いている。
- ・ 並材市況はスギ・ヒノキともに10月寒伐り材から上昇し安定。B C材は製紙・バイオマス向け低質材価格の上昇により値差は少ないが、安定した価格が続いている。
- ・ 大阪府内の製品市場では、10月は前年と比較して売上高が3.2%増、販売量が5.1%増、入荷量が13.3%増。前月との比較では売上高が6.8%増、販売量が11.3%増、入荷量が8%減となった。木材価格は全体的に需要減で弱含みの状態が続いている。

○今後の見通し

- ・ 和歌山県内の令和6年次の下半期木材供給量は、対前年並みで、バイオマス用材は増加傾向の見込み。
- ・ 近畿エリアでは、雪の影響に加え民有林施業は伐採届等の施業準備にも時間を要する為、引き続き低位な出材量が続く見込み。

○その他

- ・ 花粉症対策木材利用促進支援事業にてスギ平角をいかに取り入れてもらえるか、各プレカット業者に聞き取りをしており、許容応力度計算の再計算も含めて、品質確保や安定供給が今後の課題ではないか。
- ・ 和歌山県では県営住宅の建替えを木造3階建てで計画するなど、製材用材の需要拡大を図っている。
- ・ バイオマス向けの採材が変わってきており、傷材は4m、末木部分は、長さにこだわることなく枝葉をつけたままでチップ工場に搬入されている。

- ・ 欧州材Rウッドの第4クォーターの契約は、大幅な減少となり、来年初めの入荷量は減少傾向になる見込み。
- ・ アメリカに進出している大手日系企業は、現地で調達していたディメンションランバーを日本からスギ材を加工して輸入するなど引き合いが強くなっている。

令和6年度

第3回 近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会

出席者名簿

委員

| 氏名 | 所属等 | 備考 |
|-------|-------------------------|-------|
| 立花 敏 | 京都大学 教授 | |
| 原 賢一郎 | 和歌山県農林水産部森林・林業局 林業振興課長 | |
| 掛屋 晶則 | 岡山県農林水産部 林政課長 | ご欠席 |
| 錦 織 誠 | 島根県農林水産部林業課 管理監（木材振興室長） | |
| 戸川 睦徳 | 株式会社戸川木材 代表取締役 | ご欠席 |
| 八木 数也 | 株式会社八木木材 取締役 | Web出席 |
| 三栖 基史 | 株式会社山長商店 常務取締役 | |
| 荻原 直樹 | 中国木材株式会社山林事業部 副本部長 | Web出席 |
| 内藤 和行 | 林ベニヤ産業株式会社 代表取締役社長 | |
| 難波 芳英 | 江与味製材株式会社 代表取締役会長 | ご欠席 |
| 西垣 泰幸 | 西垣林業株式会社 会長 | |

森林管理局

| 氏名 | 役職等 | 備考 |
|--------|-------------|----|
| 川浪 亜紀子 | 次長 | |
| 石上 公彦 | 森林整備部長 | |
| 長屋 秀樹 | 資源活用課長 | |
| 前田 浩二 | 企画官（長期安定供給） | |
| 川畑 弘樹 | 供給計画係長 | |